

2006.2

子ども音楽新聞 第8刊

N響 × アシケナージ

聴いて、観て、驚いて、楽しもう！

未来へのコンサート 大研究！！

N響とアシケナージがお届けする子どもたちへのコンサート

えっ、楽器の自己紹介？物語のある音楽って本当？

オーケストラのメンバーが会場を笑顔でいっぱいにしてくれるよ！

みんなで一緒に楽しい思い出をつくりましょう！

Guten Tag!



フランツ・ワックスマン

☆フランツ・ワックスマン(1906~1967)☆

ワックスマンは、ハリウッド(アメリカ)音楽の黄金期を築いた素晴らしい作曲家です。ハリウッドで数え切れない映画音楽を書き、12回もアカデミー賞にノミネートされ、「サンセット大通り」(1950)と「陽のあたる場所」(1951)では2年連続して受賞という輝かしい経歴を飾りました。おまけに映画監督でもありました。ワックスマンはドイツの作曲家なのですが、ナチスに追われてアメリカに亡命してきた難民なのだそうです。クラシックでも映画音楽でも大活躍! 「スター・ウォーズ」、「ジュラシック・パーク」の映画音楽を書いたジョン・ウィリアムズ同様、数え切れない才能の持ち主だったのです。

☆カルメン幻想曲☆

この曲は、かの有名なヴァイオリニスト、ヤッシャ・ハイフェッツ(1901~1987)のために書かれました。そう、このカルメン幻想曲は、ピゼー作曲のオペラ「カルメン」の音楽をアイディアとして作曲されています。聴いたことのあるメロディーが必ず出てくる! 「前奏曲」、「ハバネラ」、「ジプシーの歌」、「アラゴネース」として知られている「間奏曲」などのメロディーです。

今年みんなでモーツァルト博士になろう!!

今年モーツァルトが生まれて、なんと250年目の年です。モーツァルトのお誕生日は、1756年1月27日です。同じ誕生日の人はラッキー☆☆全世界では、モーツァルト生誕250年を祝して、たくさんコンサートが行われます。日本でも、ゴールデンウィーク月にあるラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭2006(東京国際フォーラム)をはじめ、イベントがもりだくさん! さあ、家族そろってモーツァルト・イヤーを楽しもう!

ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン

「熱狂の日」音楽祭の魅力!!

ゴールデンウィーク、丸の内を中心とした都市が「音楽の島」へと変わる!? 昨年、フランスからやってきたこの音楽祭は、お祭り感があふれ、妊婦さん、母親の胸に抱かれた赤ちゃん、若いカップル、ご夫婦、お孫さんを連れたいいちゃん、おぼあちゃんも、全世代を通して楽しめる音楽祭です。世界各国から1,500人以上の音楽家が大集合、朝から終電間際までまるまる3日間150公演! 演奏時間は平均45分で、一流の演奏が、売り切れ御免! なんと1,500円で聴ける! 今年は~モーツァルトと仲間たち~がテーマ。家族みんなでモーツァルトの音楽を聴いて、触れて、知りつくそう! さあ、今すぐチケットのご予約を! とにかくすごい!!!

【会期】

丸の内・周辺エリア: 4/29~5/6
東京国際フォーラム全館: 5/4~5/6

お問い合わせ

「熱狂の日」音楽祭2006事務局 TEL: 03-5221-9100(平日 10:00~17:00)
会員登録はこちらから! <http://www.t-i-forum.co.jp>



昔はみんなこのようにかつらをつけていたんだよ! (注意) モーツァルトはモヒカンではありませんでした。



☆エドワード・ベンジャミン・ブリティン(1913~1976)☆
 イギリス、ローストフト生まれのベンジャミン・ブリティンは、幼い頃からとても才能のある作曲家として知られていました。指揮者・ピアニストとしても活躍。ロンドン王立音楽院で学び、卒業後、作曲家として活動を本格的に開始しました。アルバン・ベルクのもとで作曲の勉強をしたいと強くのぞみましたが、ベルクの突然の死と大学の作曲の先生の反対によってかないませんでした。有名な曲では、「戦争レクイエム」、「ピーター・グライムズ」、「シンフル・シンフォニー」があります。

☆「青少年のための管弦楽入門」☆

この曲は、イギリス政府が教育用映画として、オーケストラ解説のフィルム「管弦楽の楽器 The Instruments of the Orchestra」を作ったとき、その音楽としてかけられました。なんとこのスコアには、指揮者が解説しながら曲を演奏するように、その間には、フェルマータで音をたもつように工夫されています。解説は、エリック・クロツィアさんによって書かれました。サブタイトルとして、「パーセルの主題による変奏曲とフーガ」と記されています。



●「パーセル」ってなあに？

「パーセル」とは、ヘンリー・パーセル(1659~1695:イギリスの作曲家)というバロック時代に大活躍した作曲家のことで、バッハが活躍していた時代ですね！ブリティンは、ヘンリー・パーセルの作曲したオペラ「アプデラザール」のテーマを用いて「青少年のための管弦楽入門」を作曲しました。パーセルは、声楽隊、オルガン奏者などを経験し、国王付きの作曲家になりました。この時代、国王に仕える作曲家は、大変貴重で、他の音楽家にとってはあこがれの的だったのです。

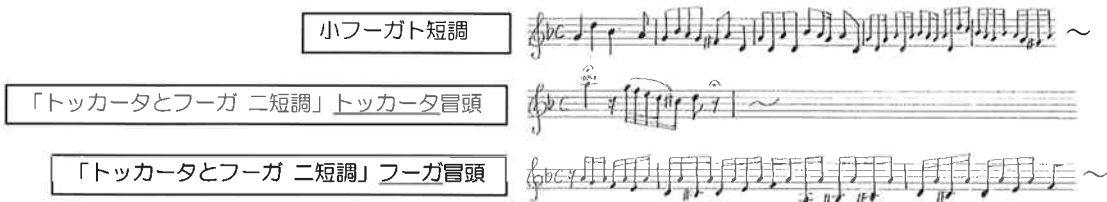
●「^{へんそうきょく}変奏曲」ってなあに？

「変奏」は、「バリエーション」ともいいます。主題のリズムをかえたり、調をかえたりすることを行います。モーツァルト作曲の「きらきら星変奏曲」などがそうですね。



●「フーガ」ってなあに？

「フーガ」は、バロック時代に生まれたとても重要な作曲技法のひとつです。主題(フーガの曲の一番最初にでてくるメロディ)が、どんどん展開されていきます。ピアノの曲だと、主題が他のメロディーとともに右手にでてきたり、左手にでてきたり、調をかえてでてきたりします。リズムなどは変わりません。有名な曲はバッハ作曲「トッカータとフーガ 二短調」、「小フーガ ト短調」などあります。「トッカータとフーガ…」は、ディズニーのファンタジアでも使われた曲です。



「青少年のための管弦楽入門」をくわしくみてみよう！！

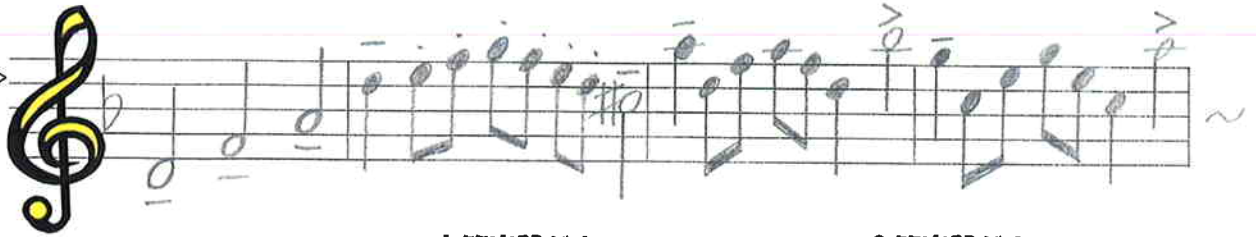
ブリテン作曲「青少年のための管弦楽入門」の入門コーナー！

演奏される順番どおりに、五線紙の上には楽器のグループや楽器たちが登場！！
各楽器やグループが演奏する前には、誰でもわかる楽器の簡単な解説つき。コンサートで聴いてみよう！

まずこのような解説で、曲が始まります。

「ベンジャミン・ブリテンは、皆さんにオーケストラの楽器を紹介するためにこの曲を書きました。オーケストラの演奏者は、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器の4つのグループです。それぞれのグループは同じような方法で、同じような音をだします。弦楽器は弓を使うか指ではじいて演奏します。木管楽器は息を楽器に吹き込みます。金管楽器も同じです。打楽器はたたいて音をだします。最初にイギリスの偉大な作曲家、ヘンリー・パーセルによってかかれたテーマをオーケストラ全体で演奏し、4つのグループそれぞれによって演奏されます。

パーセル
の主題

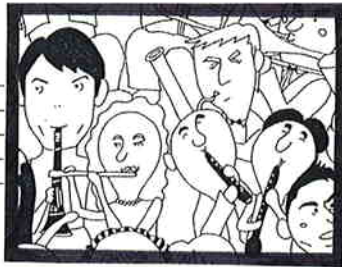


まずは、楽器のグループごとに演奏します。

オーケストラ



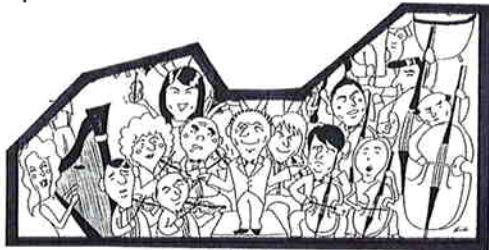
木管楽器グループ



金管楽器グループ



オーケストラ



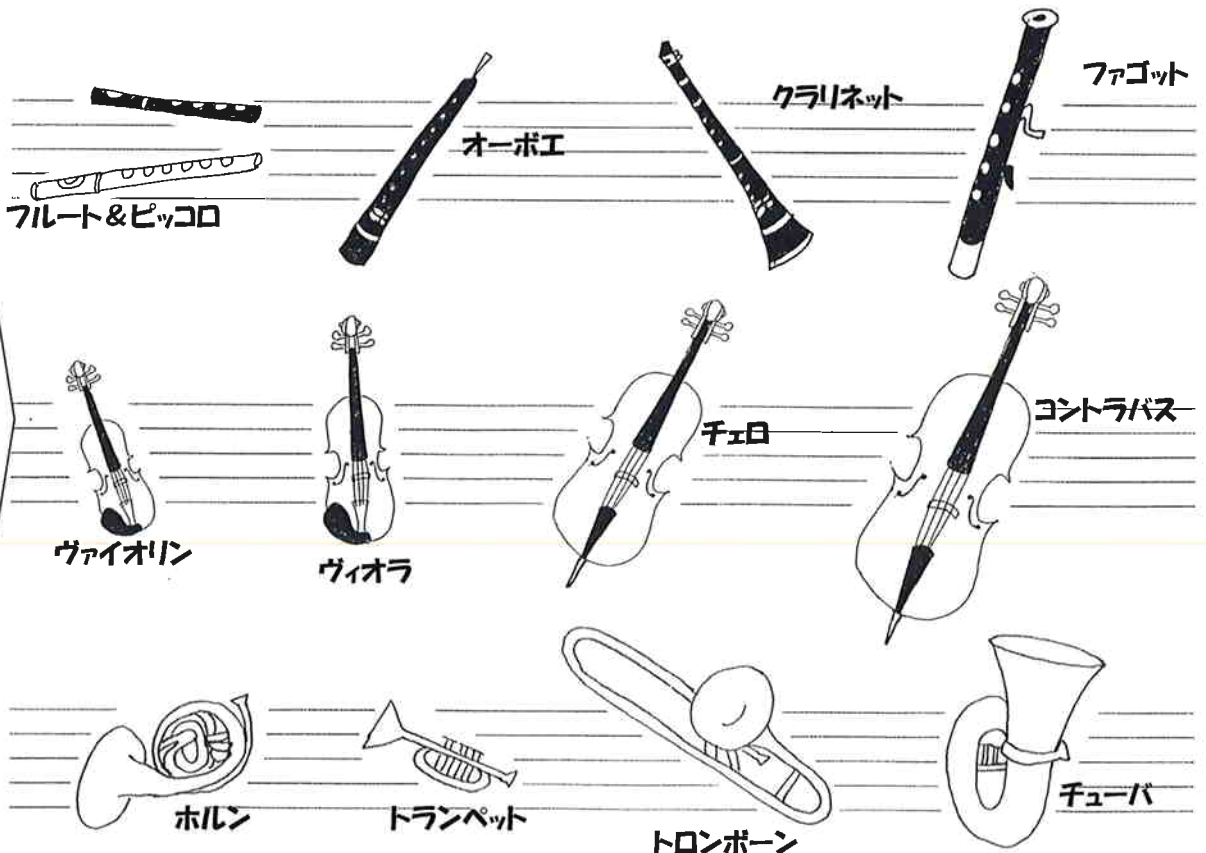
弦楽器グループ



打楽器グループ



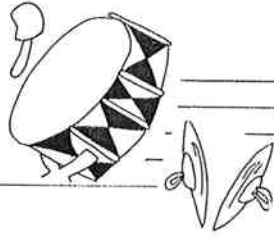
次は各楽器ごとに演奏です。フルトから打楽器まで、楽器の音色や特色をいかしたメロディ・テーマの演奏がはじまります。



ティンパニ



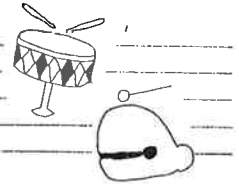
大太鼓とシンバル



タンバリンと
トライアングル



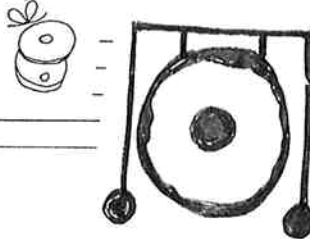
小太鼓と木魚



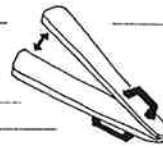
木琴



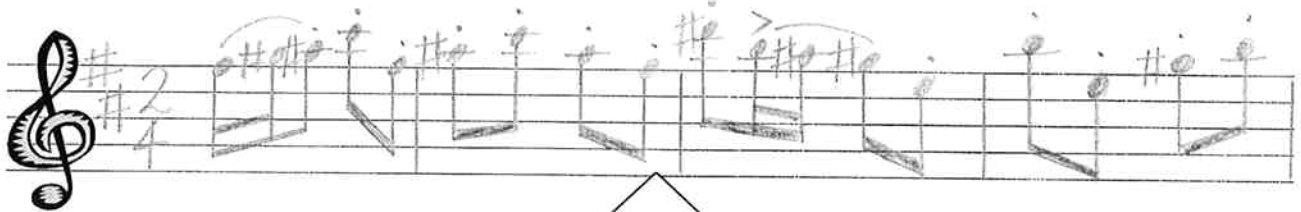
カスタネットとタムタム



ムチ



打楽器グループ
全体で演奏



フーガのテーマ

フーガを演奏する前にこのような解説が入ります。

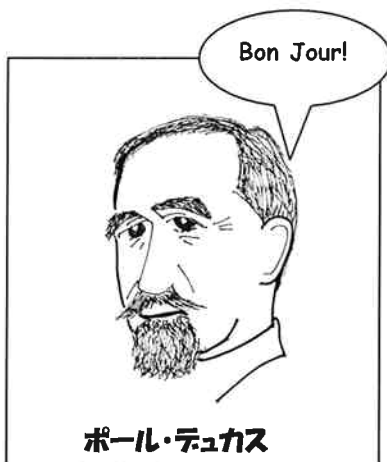
(解説)わたしたちは、オーケストラ全体を部分的にみてきました。さあ、今度はオーケストラの楽器全部をあわせてフーガを演奏します。楽器のおいかけっこが始まります。時間差をつけて、ピッコロから今までと同じ順番で楽器たちが登場します。そして最後には、パーセルの美しいメロディを金管楽器が奏でる中、他の楽器は、ベンジャミン・ブリテンのフーガを演奏していきます。

最後には、オーケストラ全体で、ゴージャスで雄大にクライマックスをむかえます。

か、感動！！ブリテンはなんて素晴らしい曲をかいてくれたのだろう！簡単な解説付きで、オーケストラの楽器たちの全ての音をしっかり聴くことができるなんて…！

最高だね！！





☆ポール・デュカス(デュカともいう)(1865~1935)☆
ポール・デュカスは、フランスのパリに生まれました。フランクの弟子であった彼は、ワーグナーに魅力を感じ熱狂的な時期もありましたが、やがて独自の作風を確立していきます。自分にとっても厳しい人で、自分が「だめだ!」と思った作品は全て捨ててしまったため、作品が少ししか残されていません。遺産として残された作品はいずれも傑作。とても魅力的な作品ばかりです。

☆交響詩「魔法使いの弟子」☆

1897年に、ゲーテの有名な韻文(バラード)「魔法使いの弟子」をフランス語に訳したものをプログラムとし、序奏とコーダのついた、交響的スケルツォの形式で作曲されました。この曲は、ベルリオーズ作曲の「幻想交響曲」と同じ種類で、お話がついています。ミッキーマウスが「魔法使いの弟子」に扮する、傑作アニメーション「ファンタジア」で使われているメロディーです。



●「ゲーテ」ってなあに？

ゲーテは詩人として有名です。ドイツ文学界の巨匠とされています。シューベルトの「魔王」「野ばら」はゲーテの詩に曲をつけたものです。ベートーヴェンもゲーテを好んだといわれています。

●「スケルツォ」ってなあに？

スケルツォはメヌエットから発達したもので、ベートーヴェン以降の交響曲などでは、はメヌエットの代わりに組み込まれていることも多いそうです。三拍子であるところや、曲の形式などでメヌエットと同じですが、きわめて速いのが特徴です。なお、初期のスケルツォは3拍子系でしたが、だんだんそれにこだわらないスケルツォも多く作られるようになりました。ベートーヴェン作曲交響曲第9番の2楽章、メンデルスゾーンの「真夏の夜の夢」、そのほかにもショパン作曲のスケルツォが代表的なものです。是非聴いてみてね！

●「バラード」ってなあに？

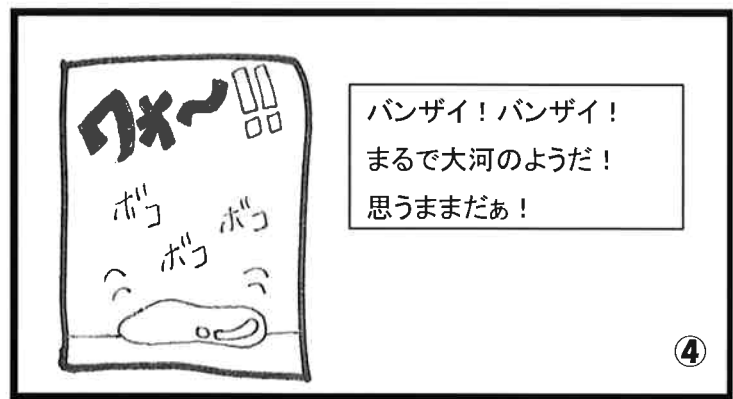
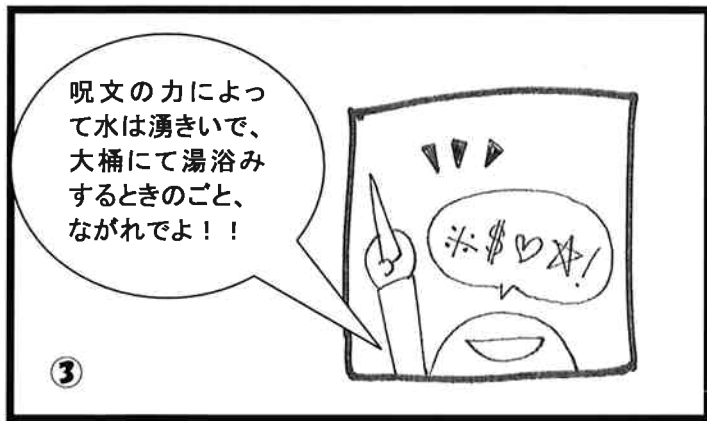
ここで意味する「バラード」は、音楽の「バラード」とは違って、伝説などを題材にした、民謡的で物語のように作られた詩のことを示します。ゲーテは30作品ほどのバラードを世に残したそうです。



さて、「魔法使いの弟子」ってどんな話なのかな？



交響詩「魔法使いの弟子」は、こんなおはなし！



水があふれだす様子や、先生がお家に帰ってきた様子を、テュカスは上手に音楽で表現しています。是非コンサートで聴いてみよう！